

1部・2部 川村雅則ゼミⅠ・Ⅱ・Ⅲ

参加学生数 1部19名・2部13名



川村 雅則

経済学科
教授



インゼミ大会無事終了

新型コロナウイルス禍の下での学生アルバイト等 コロナ下における看護労働

研修地：札幌市

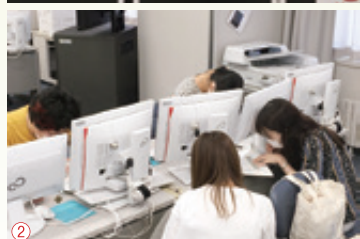
●研修目的

昨年度に引き続き、コロナ下における学生アルバイト等の現状把握につとめた。コロナ感染拡大によるアルバイトへの影響が長期化していること、緊急事態宣言が解除されても就業機会が回復・安定しないこと、業種による差が大きいことなどを念頭において調査を行った。

研修先・日程

前期	コロナ・パンデミック下の雇用や生活保障のあり方について学ぶ。 昨年度中止になった日本学生経済ゼミナール大会（以下、インゼミ大会）が、今年度はオンラインで開催されることになったので、1部ゼミⅡは2グループに分かれて研究テーマの検討を開始（注）。 残りの1部ゼミⅠと2部ゼミは、昨年度に引き続き、コロナ下における学生アルバイトでの経験、学費負担や奨学金利用、経済状況や生活全般（以下、学生アルバイト等）の調査の準備に取りかかる。調査後の活動を視野に入れて、今年度は7月に前倒しで調査を実施。
夏季休暇	「北海学園大学 学生アルバイト白書2021」（以下、「白書」）の作成に着手。
後期	「白書」の暫定版を作成した後、コンテンツ作りのほか、大学との懇談の準備に取り組む。 ゼミⅡは、インゼミ大会に参加して法政大学のゼミと討論（12月4日）。 「白書」、コンテンツ、インゼミ大会の論文は、ウェブサイト（北海道労働情報NAVI）上で公開。

注：最終的に、第1グループは学生アルバイトに関する詳細調査聞き取りを行い、第2グループは、労働組合のご協力を得てコロナ下における看護職の労働実態聞き取り調査で明らかにした。いずれも紙幅の都合で省略する。



●総括

(1) 今年度もウェブ上でアンケート調査を実施した。本学に在籍する学生およそ8千人近くに配信を行い、696人（1部500人、2部196人）から有効回答を得た。ウェブ環境が整備された者に回答が偏っている可能性も念頭におきながらみていく（詳細は『白書』を参照されたい）。

(2) アルバイト就業：コロナ下で勤務シフト・勤務時間数の減少を多くの学生が経験していた（図表1）。「勤務シフト・労働時間が減った」、「勤務シフト・労働時間がゼロになる期間があった」、「バイト先が休業することがあった」など、勤務の減少（ゼロを含む）が広く経験されており、三ついずれかの項目に回答した者（勤務が減ったかゼロを経験した者）は、重複を除くと46.6%（1部では49.7%、2部では39.4%）である。

学生アルバイトの二大業種である「飲食店」と「小売店」で働く者のそれぞれに焦点をあててみた。やはりというべきか、コロナの影響を大きく受けている者は「飲食店」群で多かった。緊急事態宣言下（2021年5,6月）での勤務量の変化を尋ねたところ（図表2）、「小売店」群では「変化していない」が71.1%であるのに対して、「飲食店」群では「ゼロになった」が18.6%、「減った」が48.3%であった。

勤務の減少は広く確認されたが、にも関わらず、休業手当が支給されていなかった。勤務の減少を経験した者に対して休業手当が支給されたかを尋ねたが（図表3）、半数は、「とくに何も支給されなかった」と回答している。

今回は、ワークルールの認知・理解状況についても調べてみた（図表4・5）。条件を満たせば学生アルバイトでも有給休暇を使うことができることを知っている者は4分の3に及んだものの、自分の現在のアルバイト先で学生アルバイトが有給休暇を使うことができるかどうかは「わからない」が44.6%で、15.6%は「できない」と回答している。また休業手当については、(a) 学生アルバイトでも休業手当が支給されることは「知っていた」が6割強であるが、(b) 労働基準法上、休業手当は平均賃金の6割以上が支給される必要があることについては、「知っていた」は47.9%にまで低下し、(c) お店が完全に休業

学生研修記



佐藤 美緒
経済学科 2年
大麻高校出身

アルバイト白書を作成し学んだこと

私たちのゼミでは、コロナ禍での学生のアルバイト事情などを明らかにするためにアンケート調査を行い、調査結果に基づきアルバイト白書を作成しました。昨年度行われた調査と大きな違いは、業種によるコロナの影響や働き方の違いに着目した設問や、休業手当制度の認知度や手当の支給状況を聞く設問を設置したことです。

調査の結果は、学生の多くが働く小売店と飲食店で影響が大きいことが分かりました。特に飲食店では、緊急事態宣言等が影響してシフトが減る又は無くなったという学生が多く見受けられました。休業手当については、正しい知識を持っていない学生が多いことや、休業手当を十分に受け取っていない学生がとて多いことが明らかとなりました。調査を通して、正しい知識を身に付けることの大切さを学びました。そして、それを発信していくことも重要なのだと思います。



八谷 竜暉
経済学科 2年
知内高校出身

地域研修を振り返って

今回の地域研修では、北海学園生にアルバイトに関することについてアンケート調査を行いました。特にコロナ禍以前と以後でのアルバイトの労働時間の変化や給料の変化、休業手当はしっかり支払われているかなどの項目を設けました。ゼミのメンバーと一緒に調査結果をまとめるにあたっては、コロナ感染予防ということで、直接顔を合わせて作業することに苦労しました。そんな中でもしっかりとアンケート調査の結果をまとめることができました。

今回のアンケート結果で、最も目を引いたのが、休業手当の認知度についてでした。休業手当の仕組みをしっかり理解している学生の割合が低かったのです。

今回の地域研修を終え、私は、北海学園生をはじめとした大学生にもっと休業手当など働く際のルールを広めていくべきだと感じました。

図表1 2020年度のアルバイトでの経験（求職活動経験も含む）【複数回答可】

合計【単位：人・％】	464 100.0
勤務シフト・労働時間が減った	177 38.1
勤務シフト・労働時間が減った	97 20.9
バイト先を解雇された	14 3.0
バイト先が休業することがあった	124 26.7
バイト先の廃業・閉店を経験した	21 4.5
自分が希望するだけの労働時間数を働くことができなかった	109 23.5
コロナ感染をおそれてアルバイトをひかえた	62 13.4
コロナ感染をおそれてアルバイトを辞めた	15 3.2
仕事を探したが、見つけるのに苦労した	72 15.5
仕事を探したが、最後まで見つけれなかった	23 5.0
コロナで仕事が逆に忙しくなった	44 9.5
収入を増やすため労働時間数や仕事・アルバイト先を増やした	56 12.1
とくに問題はなく、安定的に働くことができた	153 33.0
（無回答）	3 0.6

したり1日単位での休業の場合だけでなく、勤務時間が短縮されるような場合でも休業手当が支給されることを知っていたかという質問への回答は、4割弱にまでさらに低下した。より実践的なワークルール教育の必要性が示唆される。

（3）経済的な状況や心身の状況：コロナ禍の長期化で学生たちのメンタル状況が懸念される。

図表6は、経済的な状況や心身の状況のうち「大学で友人ができない」、「サークル活動や部活動に入り損ねた」、「大学生生活がつまらない」の割合を取り上げたものであるが、1部でも2部でも「2年生」の結果がよくない。大学生生活2年間でコロナで制約を受けていることの反映と推測される。

図表7は、コロナ下における収入の減少に対してとった対応策のうち「食費を削った」割合である。実家・親元以外群で食費を削った者が多い。図表は省略するが、本学で開催されている食糧支援について今後も利用を希望する者は1部で26.8%、2部で37.2%と多かった。

（4）調査結果を踏まえた今後の活動について：例年、調査結果を取りまとめてそれで活動を終わらせてしまっていることに疑問を感じたゼミ生たちが、今年度は、調査結果に基づいて何らかのアクションを起こそうと提起して、その賛否を調査で尋ねた。図表8はそのうちの1つで、大学への申し入れを行うべきか尋ねたものである（ほかに、「学習会の開催」、「学内外への周知・広報」、「政治への働きかけ」の実施への賛否を尋ねた）。結果は、実施すべき（強く思う、思う）と多くが回答している。背景には、学費負担への疑問や批判——図表は省略するが、今年度も遠隔授業が中心であるのに対して授業料負担が例年通りであることへの不満（「非常に納得ができない」30.9%、「納得ができない」34.3%）——などがある。『白書』はこちらで公開 → <https://roudou-navi.org/>

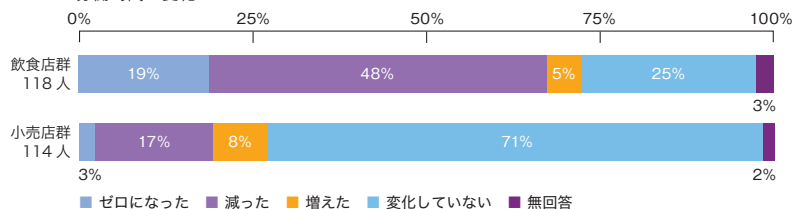
図表4 有給休暇制度に関する認知・理解状況と、自分のアルバイト先での有給休暇制度の利用の可否

合計【単位：人・％】	495 100.0
勤続期間などの条件を満たせば、学生アルバイトでも有給休暇を使うことができることを	
知っていた	371 74.9
知らなかった	113 22.8
有給休暇制度そのものを知らなかった	9 1.2
（無回答）	5 1.0
合計【単位：人・％】	495 100.0
現在のアルバイト先では、学生アルバイトが有給休暇を使うことは	
できる	195 39.4
できない	77 15.6
わからない	221 44.6
（無回答）	2 0.4

図表5 休業手当制度に関する認知・理解状況

合計【単位：人・％】	495 100.0
学生アルバイトでも休業手当が支給されることを	
知っていた	316 63.8
知らなかった	175 35.4
（無回答）	4 0.8
合計【単位：人・％】	495 100.0
労働基準法上、休業手当は平均賃金の6割以上が支給される必要があることを	
知っていた	237 47.9
知らなかった	256 51.7
（無回答）	2 0.4
合計【単位：人・％】	495 100.0
お店が完全に休業したり1日単位での休業の場合だけでなく、勤務時間が短縮されるような場合でも休業手当が支給されることを	
知っていた	190 38.4
知らなかった	302 61.0
（無回答）	3 0.6

図表2 業種（飲食店、小売店）別にみた、緊急事態宣言下（2021年5月16日～6月20日）でのシフト量・労働時間の変化



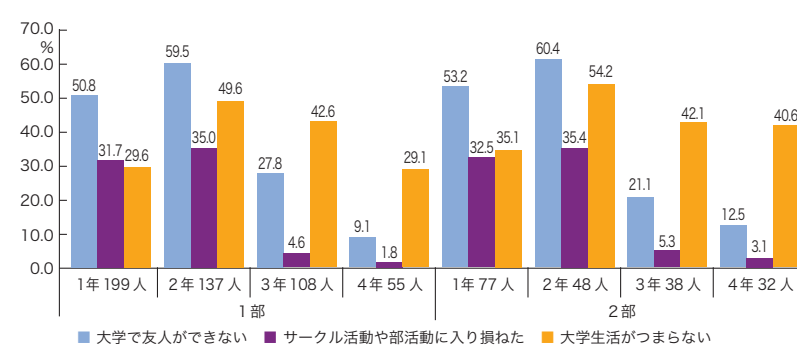
図表3 休業手当が支給されたか【複数回答可】

合計【単位：人・％】	254 100.0
休業手当が支給された	103 40.6
休業手当ではないが、シフト・労働時間の減少に対する手当が支給された	26 10.2
有給休暇の使用で処理された	9 3.5
とくに何も支給されなかった	127 50.0
その他	4 1.6

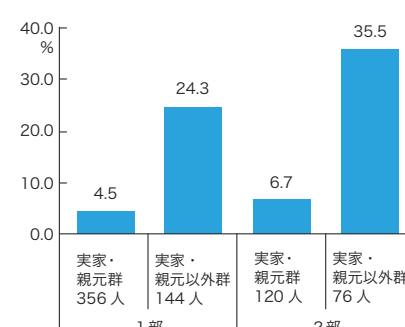


写真①今年の調査内容の検討作業。②アンケート調査結果の取りまとめ作業中。③学生アルバイト白書2021が完成。④今年のインゼミ大会はオンライン開催。⑤パソコン画面の向こうには討論相手のゼミが。

図表6 所属の部×学年別にみた、経済的な状況や心身の状況【複数回答可】のうち、「大学で友人ができない」、「サークル活動や部活動に入り損ねた」、「大学生生活がつまらない」の割合 全体=696人



図表7 所属の部×住まい別にみた、コロナ下における収入の減少に対してとった対応策【複数回答可】のうち「食費を削った」の割合



図表8 調査結果に基づき大学への申し入れを行うべきか 全体=696人

